

応用生物科学部平成 17 年度後学期授業の学生による評価の分析結果

平成 18 年 9 月 6 日
自己点検評価委員会
委員長 柵木利昭

応用生物科学部自己点検評価委員会では、学部教育の更なる改善のため、平成 16 年度に引き続き学生による授業評価を実施しました。その評価の分析結果を報告いたします。

今後、これらの評価をもとに、教員の授業内容の改善活動につなげ、アンケート内容や回答方法の見なおし、教育カリキュラムを充実し、教職員による授業改善活動を継続的に行っていく所存です。分析結果をお読みいただき、ご意見・ご要望がありましたら、学部までお寄せくだされば幸いです。

分析結果の概要

1. 回収率について

学部全体で対象学生 894 名中 378 名がアンケートに回答し、回収率は 42.3%であった。履修科目のほとんど無い農学部生物資源生産学科、生物生産システム学科および生物資源利用学科の 4 年生および獣医学科 6 年生の合計 219 名を除けば、55.5%の回収率であった(表 1)。これらの数字は前学期の 82.3%の回収率に比べかなり低い。今年度は講義最終日等の時間中にアンケートを配布し、その場で回収するなど回収方法を改善した結果、昨年度の学生自身がポストに投函する方法(昨年度後学期の回収率 32%)に比べ、高い回収率となったと考えられる。詳細に検討すると回収率が上記 4 クラスを除く 12 クラス中 100%の回収率を示した獣医学課程の 2 クラスを含め 7 クラスが 60%以上の回収率を示したが、1 クラスではあったが 20.0%の回収率もあり、平成 17 年度前学期(13 クラス中 10 クラスが 80%以上の回収率)に比べ課程・学科によって回収率の差が大きかった。確実な回収方法をさらに検討していきたい。

表 - 1 授業評価アンケートの回収率(平成 17 年度後学期)

クラス	対象学生数	回収枚数	回収率	
食品生命科学課程	1 年生	85	25	29.4%
	2 年生	87	59	67.8 %
生産環境科学課程	1 年生	88	34	38.6%
	2 年生	94	57	60.0%
生物資源生産学科	3 年生	53	21	39.6%
生物生産システム学科	3 年生	50	10	20.0%
生物資源利用学科	3 年生	69	30	43.5%
獣医学課程	1 年生	30	30	100%
	2 年生	29	29	100%
獣医学科	3 年生	31	26	83.9%
	4 年生	29	26	89.7%
	5 年生	30	23	76.7%
合 計	675	375	55.5%	

* 対象学生数：在籍学生から休学者等を除いた数

2 . 評価科目、評価項目等について

評価の対象とした項目は 16 年度と全く同じもので 授業の目的、主題が明確で全体が体系付けられていましたか、 理解しやすくするために資料等に配慮、工夫されていたか、 話し方、板書の仕方は適切でしたか、 質問のしやすさ、予習・復習の指導は適切でしたか、 教員が熱意を持っていると感じましたか、 授業の内容は興味あるものでしたか、 の 6 項目である。それぞれの項目を 1 (劣) から 5 (優) まで 5 段階で評価した。

基礎科目 10 科目、専門科目 109 科目の合計 119 科目を調査対象とした。その内訳は 91

科目が講義、28科目が実習、実験および演習である。受講者の人数が100名を超えるものは僅か5科目で、99～50名が37科目、49名以下が77科目（65%）であり1科目あたり受講者の人数はほぼ適正と思われる。基礎科目の代数学と化学 はそれぞれ2つの教室、生物学 は3つの教室に分割し100名を超える大人数の受講者にならないよう配慮している。

3. 総合点の概要

化学 の2教室は同じ教員による講義であり、総合点がそれぞれ3.67と3.26と良く似た評価がなされている。同様に同じ教員による生物学 のA、B、C教室でも3.13、3.17、3.78と類似した評価を与えている。従って、この授業評価は信憑性がかなり高いと考えられる。しかしながら、前述のように今回は回収率が20%とかなり低いクラスがあり、そのクラスを中心に回答数が4名以下の科目が119科目中21科目、18%もあり、これらの科目ではその評価に偏りが出た可能性がある。

全授業科目118科目（回収率0%の1科目を除く）の総合点（表-2）の平均は3.61であり、前学期の3.72よりやや低い。総合点が4点以上の高い評価を受けた科目は32科目（27%）であり、前学期の56科目、42%に比べその割合が減少した。3点未満の低い評価を受けた科目は僅か9科目（8%）であり、前学期の17科目、13%に比べやや改善が見られた。なお、77科目、65%は3点台の評価を受けた（表-2）。

表-2. 講義と実習等の総合評価

総合点	3.00未満	3.00～3.99	4.00以上	計
講義	8科目（9%）	62科目（69%）	20科目（22%）	90科目
実習等	1（4）	15（53）	12（43）	28
合計	9（8）	77（65）	32（27）	118

* 実習等には実験・演習を含む

3点未満の低い評価を受けた9科目中8科目が講義であった。講義と実習等と比較すると実習等の方が高い評価を受けている。しかしながら、獣医学科の臨床実習中および実習後の動物に対する配慮が不十分であるとの指摘もある。受講生に疑念を抱かせないよう動物の生命についてさらに配慮し、動物慰霊祭だけではなく、実験・実習時にも教員と学生が共に動物の生命の取り扱いについて真摯に向き合う必要がある。

4. 学生からのコメントの概要について

基礎科目4科目(%)に16項目、専門科目48科目(%)に125項目の合計64科目に141項目とさらに科目名の不記載の32項目を加え173項目のコメントが寄せられた。

コメントの内容の主なものは授業内容や方法に関するものが約72件、パワーポイント、OHPやプリントなど資料提示に関するもの35件、板書に関するものが12件、声が小さいなど話し方に関するもの6件、遅刻など授業時間や補講に関するもの15件、評価基準を含めテストに関するもの3件、複数教員による担当に関するもの5件、この授業評価に関するもの5件、暖房など教室環境に関するもの5件である。その中身はポジティブ(よく理解できた、要望等)なものよりネガティブ(批判的、否定的等)なものが多い。

4点台の評価を受けた科目への学生からのコメントの実数は比較的少なく、その主なものはポジティブなものであった。多数の学生からネガティブなコメントが寄せられた5科目を列举すると、受講生29名中21名(72%)、42名中15名(36%)、29名中6名(21%)、30名中6名(20%)、69名中8名(12%)であり、授業内容、方法や資料などに関するもので批判的な意見が多かった。この多数のコメントの寄せられた5科目中4科目は獣医学課程および獣医学科の開講科目である。

授業評価そのものに関して、前回までの授業評価による改善活動は充分にはなされておらず、授業が改善されたとは思えない、また、評価がどのように活かされているか示されておらず、実感としてはこのアンケートは意味がないと思うなど、自己点検委員会として、

より綿密な対応が求められる 5 件のコメントが寄せられている。

5 . 大人数クラスについて(図 - 1)

受講生が 100 名以上の大人数クラスが 5 科目あり、その内 2 科目は総合点 4.08(生物形態学)、3.93(生化学)と高い評価を受けた。しかしながら、2 科目は 2.97(化学 D)、2.32(生命倫理学)と低い評価を受けた。100 人を超える大人数の受講者での講義何かと苦労されたかと思うが、学生からの評価は割れた。

専門基礎科目の代数学と化学 は 2 教室に、生物学 は 3 教室に分けて大人数にならないよう配慮し講義をした。しかし、化学 の 2 教室はそれぞれ 100 名と 97 名となり、学生から生物学のように 3 教室 (60~70 人) にして欲しいとの要望が出ており、さらなる少人数化を検討すべきである。

6 . 3 人以上の複数の教員が担当する科目について

教員 3 人以上で担当する科目は、講義が 7 科目 9 教室及び実験・実習・演習が 22 科目 22 教室の合計 31 教室(開講科目数の 26%)が開講されている。実習等の 22 科目中 11 科目は 4 点以上の高い評価を得ており、多人数の教員によるきめ細かい指導ができていていると思われる。実習・実験の 1 科目が 2 点台の評価を受けたが、内容よりも実習室の暖房の整備不良が指摘されている。一方で、教員によって講義内容や方法に差があり過ぎる、先生を交代制にすると講義の流れが変わるとの指摘がある。教員間で授業内容・方法等に関して充分連絡、協力する必要がある。

7 . 非常勤講師担当科目について

非常勤講師が担当する科目は 18 科目 20 教室(6 教室は基礎科目)ある。3 科目は総合点が 2 点台の低い評価を受けたものの、科学英語の 2 教室は 4 点台の高い評価を得ており常

勤の担当する科目との遜色はない。このような評価のばらつきを少なくするために、非常勤講師の先生方にも学部の改善活動に協力いただく必要がある。

8．話し方・書き方について

声が小さい、口ごもる、聞き取りにくいなど話し方に関する苦情は4科目6件寄せられている。これは前学期の26件に比べはるかに少ない。板書が汚いなどの苦情は10件で、これも前学期の40件に比べはるかに少ない。生化学 や酵素科学では板書がまとめられていて、とても分かり易く興味を持って授業に臨めたとする者もいた。一方で、重要なことはパワーポイントを口頭で説明するだけでなく要点を板書する、プリントを配布する、または、e-learning system(AIMS)上に載せて欲しいなどの要望も寄せられている。学生の予習復習を促すために、各教員にはこれらの要望に積極的にこたえるべきである。

9．授業時間の使い方について

4科目の授業で先生が遅れて来た、無断休講があった、授業開始前に出欠を取り遅刻扱いにされた等の苦情が寄せられた。授業内容に関係のない無駄な余談が多いとの指摘もある。また、補講を学生に相談もなく教員の都合ばかりで無理に入れたり、休日に組み込むのは止めて欲しいとの指摘もある。板書が早い、あるいは、パワーポイントやスライドをどんどん流しノートが取れない、内容が理解できない、実習で器具が足りなく、時間配分が悪く待機時間が多いなど授業の進め方に関する指摘はかなり見られた。理由のない教員の遅刻や無断休講などは、教学委員会は今後厳正に対処すべきである。

10．授業内容、カリキュラム等について

解剖学や生理学を学ぶ前に発生学が開講され理解しにくい点があるという指摘や、1年生のうちから化学の実験に触れる機会を作って欲しい、1日に1コマしか開講されていない日が

